

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス アベニール		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 23日		～ 2026年 2月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2025年 12月 23日		～ 2026年 2月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々の特性に合わせた支援の取り組み。	・様子観察や考察を重要視しており、その中で、知的障害や自閉症、発達障害といった個々の障害特性に合わせて、療育方法を検討している。 ・社会生活での様子を聞き取りながら、必要な場面ではアドバイスを行っている。	・職員へのOJTの質の向上を図り、各職員が障害特性の理解や対応方法を身に付け、言語化ができるように努める。 ・家族様に対するの助言等も既に行っているが、更に理解しやすい説明を実施していくとともに、必要に応じて家族様向けの研修会や話し合う場等の機会の提供を考えている。
2	・家族様への子育てや対応方法の助言。	・実際に事業所内で支援を行う中で、個々の特性や特徴に応じた支援を考案し、その考えをもとに自宅や外でも行える範囲の支援方法を一緒に考えています。	・家族様に対するの助言等を行っているが、更に理解しやすい説明を実施していくとともに、必要であれば家族様向けの研修会を開催することを考えている。
3	・事業所内(職員間)で話し合う機会を大切にしています。	・限られた時間の中で職員同士が支援や業務のことで話し合う機会を大切にしています。 ・意見を言える場を設け、ベテランに限らず、新人職員の意見も聞き取り、考えが固まりすぎないように意識して会議を行っています。	・支援に対するの考え方は統一していきながらも、その中で新しい考えを取り入れることにも消極的にならずに、アップデートしていけるように支援方法をや業務内容を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流(地域活動・行事等)	・多機能型の為、利用時間が短い中で事業所内での療育を中心に検討していることから、外に出ることが考えにくい。 ・地域行事や活動の情報量が乏しい。	・短時間で活動に参加できる地域行事や活動の情報を持つておくことは必要。
2	・専門的、機能的な視点で物事を捉え、助言してもらえる人材の不足。	・言語療法士や理学療法士を雇うことが難しい。 ・事業所としての求人アピール。	・言語療法士や理学療法士が雇えるように求人のアピール方法の改善。 ・給与体系等の見直し。
3	・SNS発信の弱さ	・職員の作業量の増加。 ・個人情報等にも関係してくるため、配慮方法や管理方法の難しさ。	・SNSを中心に情報社会となっている昨今、SNSの利用方法を模索し、管理方法等の仕組みを作り上げることが必要。